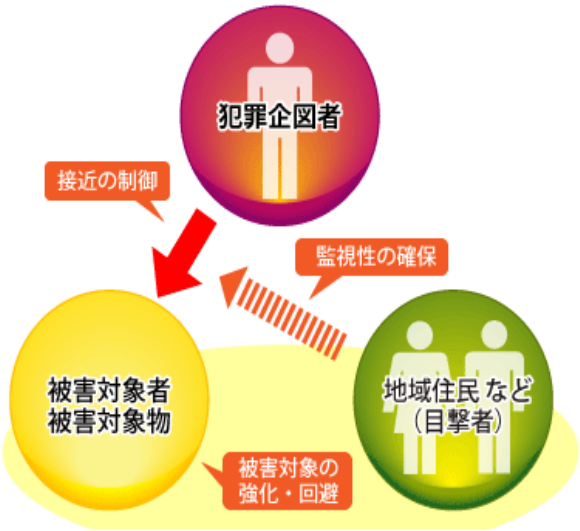
地域の力で犯罪のないまちづくりを！

★「防犯環境設計」で守りを固める！★

「防犯環境設計」とは、町並みや建築、設備等を工夫することで犯罪を防止しようとするものです。欧米では、CPTED（Crime Prevention Through Environmental Design：環境設計による犯罪予防）と呼ばれ、1970年代から進められています。

環境整備などのハード的な取組みと地域ぐるみの防犯パトロールやキャンペーンなどのソフト的な取組みとの連携で防犯効果が大きくなります。



●防犯環境設計の４つの基本原則

（接近の制御）

公園・駐車場などを見通しの良いフェンス等で囲ったり、植栽などで車道と歩道を分離するなど、犯罪を起こそうとする者が被害対象者（物）に近づきにくくすることが大切です。

（監視性の確保）

人の目のあるところでは、犯罪は起こりにくいことから、見通しを良くしたり、明るくすることが大切です。防犯灯や防犯カメラなども監視性を補完するものとして活用されています。

（被害対象の強化・回避）

自動車にハンドルロックなどの盗難防止装置を付ける、自転車にツーロックをする、建物の窓や玄関の錠を防犯性能の高いものにするなど、犯罪を起こそうとする者から狙われにくい工夫をすることが大切です。

（領域性の強化）

住民の皆さんが地域に愛着を持ち、犯罪者を寄せ付けない、安全で安心なまちにしようと地域ぐるみで防犯活動を実行している地域は犯罪者が近づきにくいものです。住民一人ひとりが防犯の目になり、犯罪に強いまちをつくりましょう！

★「割れ窓理論」で絆を深める！★

皆さんは、「割れ窓理論」をご存知ですか？「割れ窓理論」とは、アメリカの犯罪学者ジョージ・ケリング博士により提唱されたもので、１枚の割れた窓ガラスを放置すると、割られるガラスがひとつ、ふたつと増え、その建物が荒廃し、いずれは町全体が荒れてしまうというものです。1つの無秩序を放置することで、地域全体の秩序維持機能が弱まり、秩序違反行為が、犯罪の呼び水になることから、小さい芽のうちに摘むことが大切だということを説いています。地域の秩序が乱れていくうちに、最後には重大犯罪を招いてしまう・・・。これが**「割れ窓理論」**です。ニューヨークでこの理論を実践し大幅に犯罪を防止することができたことで注目されるようになりました。

私たち一人ひとりが気づいたときにゴミ等を拾う、落書きを消す、自転車置場などを整理するなど、まちの景観を美しく変えれば防犯効果をさらに高めることができるのではないでしょうか。

★「防犯のまちづくり」をみんなの手で！★

道路、公園等の管理者が防犯上望ましい整備を完璧に行うことは、現実には困難です。また、警察や行政機関が行う防犯環境整備にも限界があり、行政の力だけで十分な犯罪抑止効果を発揮することができません。そこで、住民の皆さんが地域に愛着をもって、地域ぐるみの防犯活動を行っていただき、警察や行政の取組みと連携していくことが犯罪抑止に大きな力を発揮します。

「防犯のまち」をみんなの手で！　できることから始めてみませんか。